



平素のご愛顧に厚く感謝申し上げます。

何気なく使っていた「大晦日」のいわれを知りたくて調べてみました。旧暦では、月の最後が30日と決まっていたことから、昔は5月でも8月でも、毎月30日は「みそか」と呼ばれていました。現在の「20日(はつか)」はその名残のように思えます。つまり、「みそ」は「三十」を表し、若かりし頃の三十路の「みそ」もこれと同じです。ところが明治になって、新暦(太陽暦)に変わってから、月の最後が28・29日もあれば31日の日もあることから、その月の最終日を「晦日(みそか)」と言うようになったそうです。そして12月31日は、一年の最後の日なので、前に大が付いて「大晦日」と表現されるようになりました。

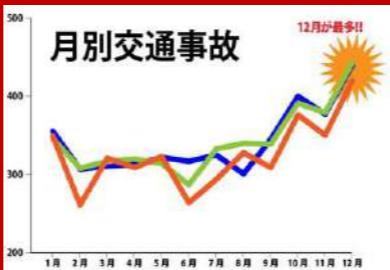
今年もコロナで大変でしたが、オリンピックも開催でき、感染者数も減少してきました。「大晦日」を越えればお正月!!! また新たな年を迎えることに感謝しつつ、このままリバウンド無く終息に向かいながら、来年こそは、皆が協力して頑張った分の甲斐があるような、輝かしい良い年になることをお祈り申し上げます。

### 今年の漢字は何かな (発表: 12月13日 清水寺)『 ? 』

2004年「災」	2010年「暑」	2016年「金」
2005年「愛」	2011年「絆」	2017年「北」
2006年「命」	2012年「金」	2018年「災」
2007年「偽」	2013年「輪」	2019年「令」
2008年「変」	2014年「税」	2020年「密」
2009年「新」	2015年「安」	2021年「」

### 【ご注意下さい】

12月は交通事故が多発  
気ぜわしい師走に、「慌てた運転」・「わき見運転」、カーナビやスマートの「ながら運転」などになりませぬよう、くれぐれもご注意下さい！



元旦は晴れて、青空に日の丸が映えて美しかった。茶の間に戻ると、姉や妹も起きていて、何だかいつもより楽しそう。四姉妹のうち一人だけが順番で着物を着ることができた。その

竿に結びつけ、てっはんに金色の玉を付けて出来上がり。二人で門松が飾つてある門まで運び、父が傾き加減に取り付ける。不思議と元旦は晴れて、青空に日の丸が映えて美しかった。



元旦は楽しみで、除夜の鐘の音を聴いてから数時間後には目覚めていた。昭和三十年代半ばで、私が小学低学年の頃である。木造家屋では音がよく響く。母がお雑煮の具材を切る音、父が上等な着物を身に着ける時の衣擦れの音などが、新しい年が来たことを教えてくれる。私も少しおめかしをして茶の間で着物を着ることを教える。父に国旗の掲揚の手伝いを頼まれた。置んである日の丸を広げて旗竿に結びつけ、てっはんに金色の玉を付けて出来上がり。二人で門松が飾つてある門まで運び、父が傾き加減に取り付ける。不思議と元旦は晴れて、青空に日の丸が映えて美しかった。

### お正月の朝 吉原百合子

お年玉が順番に手渡される。当時は百円だったが、ポケットに入れるとずりと重く感じられた。



平素のご愛顧に御礼申し上げます。実りの秋・食欲の秋！ご飯がいつも以上に美味しく感じられるので、ダイエットは一旦中断の今日この頃。ご飯と言えば、皆さんゴハンを器に入れる事を「よそう」と言いますか？それとも「よそる」と言いますか？他にも「盛る」や、「つぐ」と言う方もいらっしゃるかもしれません。私の周りでは「ゴハンをよそる」と言う人がけっこう多い気がします。

しかし、本来の言い方は「よそう」だそうです。漢字で書くと「装う」、つまり服装などを整えて身支度をするという意味が元だそうです。飲食物を器に整えて用意するという意味から、飲食物を器に盛るという意味に変化してきたそうです。一方の「よそる」は、「よそう(装)」と、「もる(盛)」とが混交したものと考えられています。ちなみに、「つぐ」の方は、継ぎ足すという意味から派生したと言われています。



そんな中、秋の味覚に「舌づみを打ちましょう！」と言ったら、社会人になった長男から「舌づみ(舌鼓)！」だよね？と駄目出しあり…。ああ、なんて日本語は難しいんだろう…。向寒の折、風邪など召されませぬようにお過ごしください。

### 「言い間違い」、「書き間違い」のしやすい日本語たち

× 危機一発 ⇒ ○危機一髪	× 血と涙の結晶 ⇒ ○血と汗の結晶
× 目鼻が利く ⇒ ○目端が利く	× 寝覚めが悪い ⇒ ○寝覚めが悪い
× 濡れ手で泡 ⇒ ○濡れ手で粟	× 飛ぶ鳥跡を濁さず ⇒ ○立つ鳥跡を濁さず
× お目にかなう ⇒ ○お眼鏡にかなう	× 舌の先の乾かぬうちに ⇒ ○舌の根の乾かぬうちに



姑はとても元氣で、義姉と一緒に都内の自宅に住んでいます。だが、このコロナ禍で感染を恐れ、「誰も家に来ちゃダメよ！」とシャツとトアウト。外にも一步も出ないという。だからといって、特別の誕生日のお祝いを中止にはできない。そこで、我が家が全員そう週末に、ビデオ通話で繋がることにした。いつもは何かと不義理の私は、たまにはいいところを見せようと、腕まくりをする。一週間前には、街の花屋さんに豪華なアレンジフラワーを注文して、配達を頼んでおいた。

2021年1月のエッセイ  
KEG

元旦は楽しみで、除夜の鐘の音を聴いてから数時間後には目覚めていた。昭和三十年代半ばで、私が小学低学年の頃である。木造家屋では音がよく響く。母がお雑煮の具材を切る音、父が上等な着物を身に着ける時の衣擦れの音などが、新しい年が来たことを教えてくれる。私も少しおめかしをして茶の間で着物を着ることを教える。父に国旗の掲揚の手伝いを頼まれた。置んである日の丸を広げて旗竿に結びつけ、てっはんに金色の玉を付けて出来上がり。二人で門松が飾つてある門まで運び、父が傾き加減に取り付ける。不思議と元旦は晴れて、青空に日の丸が映えて美しかった。

姑はたいそう喜んでくれて、孫の顔を一人ずつ大きくして眺めて、会話を楽しんだ。かくしてリモート誕生会はつながなく終了。姑いわく、「コロナが収まつたから、どこかでお食事会をしましょ。私が全部計画して、手配して、席順まで決めてあげますからね」。いやはや、百歳のゴッドマザーは、まだ健在である。

2021年1月のエッセイ  
KEG

百歳の誕生会はリモートで 石渡 ひとみ

東京都知事、大田区長から、お祝いの賞状や記念品、金一封が贈られた。

姑は今年三月にめでたく満百歳の誕生日を迎えた。先立つて昨年の敬老の日には、内閣総理大臣、東京都知事、大田区長から、お祝いの賞状や記念品、金一封が贈られた。

一番大事なのはLINEで全員を繋げること。操作が不得手な義姉のタブレットとも、すつたもんのさえ繋がった。画面が六等分され、中国に転勤中の娘も、グループホームで暮らす長男も、全員の顔が揃つたところが、みんなで大笑い。みんなで大合唱！「ハッピーバースデー！」、トゥーユー♪

一番大事なのはLINEで全員を繋げること。操作が不得手な義姉のタブレットとも、すつたもんのさえ繋がった。画面が六等分され、中国に転勤中の娘も、グループホームで暮らす長男も、全員の顔が揃つたところが、みんなで大笑い。みんなで大合唱！「ハッピーバースデー！」、トゥーユー♪

それから、パソコンを駆使してバースデーカードを作る。わが家の集合写真に吹き出しを付け、そこにそれぞれ直筆でメッセージを書き込む。早めに仕上げて姑に郵送した。

東京の「木村治美エッセイストグループ」の協力を得て、掲載しております。







令和3年  
4月号  
(No. 00016)

（いんぐ通信）  
**ing** 通信  
KOBE

（編集・発行・発行日） 2021年4月1日  
株式会社 ONE STEP  
〒654-0023 神戸市須磨区戎町3-1-8-201  
TEL: 078-766-1910 FAX: 078-766-1912



平素のご愛顧に有難く厚く御礼申し上げます。

ようやくこの春、長男が卒業し社会人になります。そこで、我が家ではこれを機に一人暮らしをさせることにしました。勤務地はまだ分かりませんが、実家から通える範囲でも出て行く予定にしています。一人で暮らすことによって食事や洗濯、掃除、買い物、ゴミ出しなど「家事のスキル」を得られるでしょう。

更にここが重要なのですが、将来のパートナーとの生活の為にもなると考えました。また今までタダ同然と思っていた水道光熱費を払うことで、自らの収入で生活していく術(すべ)を学ぶキッカケになることも期待しています。

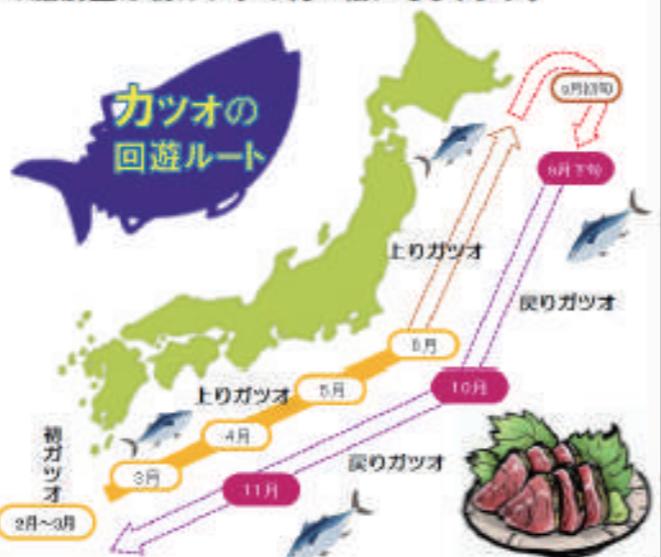
親元を離れて暮らすことにより、はじめて親のありがたみにも気づけるかもしれません。野菜は食べてるか?トイレットペーパーはあるか?と心配しない日は無いでしょう。「可愛い子には旅をさせよ」ともあるので、良い結果になることを願って春の旅を見送ります。

色とりどりの花が咲き競う季節ですが、花冷えと言われる言葉もあります。くれぐれもご自愛専一でお過ごし下さいませ。

## 目には青葉、山ほどときす初鰹

### 【鰹の旬は年2回】

カツオは、早春から夏にかけては沖縄周辺海域から伊豆半島、関東沖、東北地方沖合海域へと北上します。秋になるとUターンして南下し戻ってきます。春のカツオを「初ガツオ」や「昇りガツオ」、南下して戻ってくる秋のカツオは「戻りガツオ」と呼ばれます。三陸沖でたっぷりと餌を食べて南下してきた「戻りガツオ」の脂肪量は初ガツオの約10倍になります。



小学三年生の孫息子が、給食を食べた後、お腹が痛くて吐き気もするといって早退してきた。朝は元気だったのに風邪でもないようだ。家に帰ってきたものの横になるとほどではないらしく、しばらくして宿題をやり始めた。

「もう痛くないの」「うん、だんだん治ってきた」とよくよく事情を聴いてみた

「おでんにパン」といったメニューが当然のようにあり、低学年のはいつもパンが主食で、米飯の献立などなかった。だから、「おでんにパン」といったメニューが当然のようにあり、低学年のは脱脂粉乳を飲んでいた。クラスには脱脂粉乳が飲めずに入目になっていた子もいたし、残さず食べなければ校庭に遊びに出ることも許されないという、かなり厳しい給食指導もあった。

今は共働きの家庭も多く、夕飯作りに時間を割いていられない場合もある。そんなとき栄養のバランスが取れている給食は、まさに救世主だ。

「いくらおいしくたつて食べ過ぎだわね。気を付けなくちゃ」

大したことなくてほっとしたけれども、今の給食は実においしそうだ。私も「祖父母との

## 今月のエッセイ KEG 2021

### お替わり七回！

和田 みち子

にはこの和食のメニューがあり人気がなく、ついぶん残っていたそうだ。そこで彼は、つみれ汁を四回、芋ようかんを三回お替わりして、お腹がぱんぱんになり、腹痛となつたというわけだった。

「いくらいおいしくたつて食べ過ぎだわね。気を付けなくちゃ」というのがなくてほっとしたけれども、今の給食は実においしそうだ。私も「祖父母との

我が家はペットを飼ったことがない。手のかかる障害児の下にさらに二人の子どもがいて、ペットを飼うどころではなく、ペットは三人の子どもたちよ」というのが決まりのジョークだった。

一番下の次男がまだ三歳ぐらいいの頃、年の暮れに友人から「旅行中にペットを預かってほしい」と頼まれた。ケージに入れたつづき取りに見ることになった。

彼女は、旅のみやげを置くと、そそくさとケージを持って帰つた。短い間だったけれど、ハムちゃんは子どもたちの心にちゃんと住み着いたのだった。

ハムスターの思い出

石渡 ひとみ

（東京の木村治美エッセイストグループ）様

はづの長女が起きだしてきた。リビングのソファの下を覗き込むようにして、「ハムちゃんが逃げちゃう……」と言いかながら、ハムスターを両手で包み込んで捕まえた。次男は、「ハムちゃんのマネ」と言つては、直角に首を曲げてドアのヘリをかじつた。

ハムちゃんは子どもたちの心にちゃんと住み着いたのだった。子育てを終えた今となつては、ペットを飼つてやらなかつたことがチクリと胸を刺す。でも、あの頃は無理だったよね、と自分で言い訳をしている。

東京の木村治美エッセイストグループ

令和3年  
3月号  
(No. 00015)

（いんぐ通信）  
**ing** 通信  
KOBE

（編集・発行・発行日） 2021年3月1日  
株式会社 ONE STEP  
〒654-0023 神戸市須磨区戎町3-1-8-201  
TEL: 078-766-1910 FAX: 078-766-1912

【タイトル】  
元氣な花屋さん



日頃のご愛顧に厚く御礼申し上げます。

「しきしまの大和の国は、言葉の幸(さき)わう國ぞ、ま幸(さき)くありこそ」(万葉集:柿本人麻呂)という歌があります。これは「この日本の国は、言葉が持つ力によって幸せになっている国です。これからも平安ありますように」という意味だそうです。古代より人々は、言葉に靈力が宿るという考え方を持ち、その言葉通りの良い結果を実現したいと縁起を担ぐようになりました。それが今の時代にも続いているようです。

先日、元気や天気、気持ちなどの「気」を『氣』で書かれる方にお会いしました。「メ」のところを、あえて「米」の字で書くようしているそうです。理由は、元々は『氣』の漢字が先で、しかも「米」は日本人の主食、エネルギーそのものである。また「米」の字は未広がりで八方に広がることを意味し、エネルギーが全身から放出される縁起の良い漢字だからだそうです。反対に「氣」の場合だと、〆(しめ)は、エネルギーが終わる、閉じていく、萎縮してしまうイメージだと仰っていました。

たかが言葉されど言葉…、私も言葉遣いに氣を配り「幸わう平安な国」を願います。花冷えの候、くれぐれもご自愛の上、春風とともに、皆様にお幸せが訪れますようお祈り申し上げます。



「迷惑かけてごめんね。本当にありがとうございます」

引き取りに来ること

## 今月のエッセイ KEG 2021

正月三日

がいのハム

スターだ。

日間、玄関先で面倒を見ること

引き取りに

来るまで数

日間、玄関先で面倒を見ること

引き取りに

来ること

にした。

がいのハム

スターだ。

